



館野眞歩さん

田人地区地域おこし協力隊。平成29年に栃木県から田人地区に移住して活動を開始。地区の方と力を合わせて田人地区の振興に努めている。

リレートーク 259

田人地区を知ってもらう きっかけをつくる

Q 地域おこし協力隊として活動しようと考えたきっかけは何ですか。

就職活動を行う中で、田人地区地域おこし協力隊の募集要項を目にし、自分で活動内容を考えるという点に引かれ、自分の力で何かに挑戦してみたいと思い、応募しました。

田人地区には来たことがありませんでしたが、大学の友人が所属している団体が田人地区と交流しているという縁もあり、身近に感じることができました。

Q 田人地区の魅力について教えてください。

田人地区は、自然がとても豊かなことに加え、市街地から離れた地区だからこそ残り続けている独自の伝統や、食文化があることが魅力です。また、住んでいる方の地区への思

いの強さや、人間性の素晴らしさも魅力の一つで、こうした田人地区の方々がいるからこそ、自然や伝統などを継承できていると感じています。

Q どんな活動をしていますか。

フェイスブックやブログなどを活用し、自分の体験を交えながら、田人地区の文化やお薦めのスポットなどを紹介しています。また、田人地域振興協議会や区長の方と地区の課題や今後の活動などについて話し合いをしたり、地区の行事に参加したりしています。

さらに、田人地区に居住しているもしくは地区で働いている若い方々を中心とした「TBT」という団体を組織し、月一回程度集まって情報交換をしています。



地区の行事を盛り上げるため、意見を出し合うTBTのメンバー

Q 今後の取り組みについて教えてください。

地区の方と構想を練り、これまで協議を重ねてきた(仮称)たびとコミュニティハウスが今月オープンする予定です。古民家を改修した施設で、住民の交流の場や、カフェなどとして利用できるほか、私のように地区外から来た方と地区の方がつなされる場として活用したいと考えています。また、お試し移住として、短期間宿泊できるプランなども実施していきたいです。

田人地区は若年層が少なく、地区の担い手不足が課題です。まずは田人地区を知ってもらうことから始め、将来的な移住促進につなげていきたいと考えています。



地区内外の方の交流の場となる(仮称)たびとコミュニティハウス

地名の中の「いわき」

入遠野地区の地名の由来

遠野町入遠野は伝説の里として知られています。全国各地に伝わる平家の落人伝説が入遠野地区にもあり、平家一門の子孫とされる「平子」姓が多くみられます。言い伝えによると、大同元(八〇六)年、当時の領主・朝日長者が京の都に移った際、長者の家臣であった平子左

地名には、地域の歴史を知るヒントが隠されています。市内各所の地名にまつわる由来などを紹介し「いわき」の歴史をひもときます。

近が代わって着任し、都をしのんでこの地に京にちなんだ名称を付したとされています。

実際に入遠野地区には、現在も東山や四条内、有実、越台、天王などの地名のほか、祇園八坂神社や往生山と、京にちなんだ地名や神社などが残っています。同地区の北側は平成九(一九九七)年七月に三和町に通じる道路が開通するまで長い間行き止まりになっており、東西北の三方を山に囲まれ中央部を南北に川が流れている地形が、鴨川を中心とした京の地形に酷似しています。

また、同地区の入定という地名にも言い伝えが残っています。平安時代の僧・徳一大師はこの地で修行し、いわき地方の各地に寺を建立した後、会津地方に向かいましたが、住民がその功德に感謝し、魂が入定(無我の境地に入ること)した場所として人々が伝え、それが地名につながったといえます。

(いわき地域学會 小宅幸一)
※いわき市内の昔の写真をお持ちで、提供いただける方は、ふるさと発信課(☎22・7503)までご連絡ください。



京にちなんだ地名が残る入遠野地区(1:50,000地形図(平成13年修正))

こんにちは市長室から ④



次世代エネルギーの先進都市へ

いわき市長 清水敏男

いわき地方はかつて石炭産業で栄え、エネルギー革命と共に斜陽となりましたが、国の新産業都市の指定を受けて大同合併し、今や東北屈指の工業都市になりました。また、隣接の双葉郡には原子力発電所が誘致され、本市も少なからず恩恵を受けてきましたが、震災・原発事故後は、国を挙げて原子力に頼らないエネルギー社会の構築が急がれています。震災後、本市では、太陽光発電を積極的に

導入し、現在はメガソーラー施設も多数設置され、再生可能エネルギーといわれる風力やバイオマス発電施設の設置も具体化してきました。また、石炭ガス化複合発電(IGCC)といわれる最新鋭の火力発電所が勿来地区と広野町で建設されており、2020年以降に稼働する予定となっています。

さらに、今月5日、鹿島街道沿いに民間主導による県内初の定置式水素ステーションが開所します。いわき商工会議所や地元企業では、これに呼応して燃料電池自動車(FCEV)「MIRAI」を20数台購入し、官民共創で来るべき水素社会の到来に備えていきます。「石炭」「原子力」「再生可能エネルギー」「石炭火力」「水素」と、本市とエネルギーは切っても切れない関係があります。